

《Gated SPECT ガイドライン：ワーキンググループ報告》

Gated SPECT のガイドライン作成をめざして

日本核医学会 Gated SPECT ワーキンググループ

西村 恒彦(京府医大放), 中嶋 憲一(金沢大放), 中田 智明(札幌医大二内),
山辺 裕(加西市民病院), 汲田伸一郎(日医大放), 丸野 廣大(虎の門病院放),
伴 和信(東海大循内), 福地 一樹(国循センター放), 中 智樹(京府医大放)

Gated SPECT は, Germano らのソフトウェアの開発と併せ, 心筋血流および心機能を同時に, しかも定量的に評価できる手法として発展してきた。とりわけ, Evidence-Based Medicine 時代において各種心疾患の診断のみならず, 治療効果の判定や予後評価においてその有用性から臨床的に定着することが期待されている。しかし, Gated SPECT がどの施設でも普遍的に用いられるためには, 機種, 製剤の差異のみならず, データ収集, 処理においても, なお解決すべき点が残っている。また, Gated SPECT の臨床応用に際しても心機能諸値の精度に与える因子のみならず, どのよ

うな病態に有用なのか十分にはコンセンサスが得られていない。

本ワーキンググループでは, Gated SPECT のガイドラインの作成をめざして, 第1に Gated SPECT に関するアンケート調査を行い, その現状を把握する。第2にデータ収集, 処理や臨床応用などのそれぞれの項目におけるガイドラインを作成する。このことにより, 心臓核医学検査の質的向上をはかることができる。最終的にこれらのガイドラインを基準にして各種介入試験などのメガトライアルの評価法としても確立されることを望んでいる。